Mail

読者のひろば

読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

私は鹿屋で生まれ育ち、現在もずっと鹿屋に住んでいます。新春1月号の移住者の対談、おもしろかったです。他県から移住されてきた方が、鹿屋の良いところをお話しされた記事を読んで「あ～鹿屋は自然に恵まれて住みやすいところなんだ」と、しみじみ思いました。移住ではありませんが、私の主人も他県で、鹿屋は人が優しいと言っていますよ！（S・Iさん・女性）

地元に住んでいると、その土地の良いところは実感しにくいですよね。豊かな自然とおいしい食材に囲まれ、人情味あふれる地域に育った「かのやっ子」は、実はぜいたくな人間なのかもしれません。本市では、鹿屋に愛着と誇りを持ち共感を育む「シビックプライド」醸成の取り組みを行っています。市民の皆さんが「私たちは鹿屋に住んでいます！」と胸を張って言えるよう、これからも皆で手を取り合っていきたいですね。

広報かのや2月号の「終活」特集で私の知り合いが掲載されていたので、詳しく拝見しました。「終活」はまさに私達夫婦が直面している事です。終活は「片付け」と思っていましたが、相続、遺産、医療介護、エンディングノートなどなど、家族会議を早めに実現しなければと思いました。優先順位が考えていたのと違っていたので知り合いにも相談してみたいです。（I・Tさん・女性）

「終活」と聞くと「いつか来る死の準備」をイメージしてしまいますが、自分らしい人生とは何であるかを改めて見直すことで、残りの人生を前向きに捉え、老後の生活を豊かにするための取り組みでもあります。また、残される家族の負担を減らし、トラブルを未然に防ぐ効果も。次の世代へしっかりとバトンタッチをするため、家族の皆さんと人生会議を行いエンディングノートを作成してみてはいかがでしょうか。

毎月広報かのやの発刊を楽しみに拝見しております。隅々まで目を通しますが、毎回新しい発見があります。中でも若い方々が頑張っている姿はとても元気をもらえるし、鹿屋の未来は大丈夫と思わせてくれます。これからも色々な情報を発信してください。次回も楽しみに待っています。（A・Mさん・男性）

広報かのやを毎月見てくださりありがとうございます。読んでいただいた方に「楽しみ」と言ってもらえることが何よりの励みになります。広報かのやでは、学生が学校以外でも一生懸命にスポーツ・文化・芸術分野などに取り組む姿を取材する「放課後は別の顔」コーナーがあります。友達が登場する、同級生の考えを知ることができるなど、若年層が広報誌を読むきっかけを目指した企画でしたが、生き生きと奮闘する若者の姿に、多くの方から共感・感動していただけるコーナーとなりました。人が何かに一生懸命取り組む姿は胸を打たれるものがあり、未来ある若者であればなおさら、頑張っている若者に未来を託したいと思わせてくれますよね。広報かのやではこれからも、頑張っている皆さんを取材することを通じて、鹿屋を元気にしていきたいと考えています。

あそVIVA（ビバ）！かのやの利用登録がスマホで完結し、市役所まで行かずに済んだので便利だと思いました。ファミリー・サポート・センターの利用登録も最近やってみました！まだ利用できてはいないのですが早く活用したいと思っています。実際に活用されている方の声などを聞けたら安心して利用できるかなぁ（初めての利用は心配もあり…）と思いました。（N・Fさん・女性）

ファミリー・サポート・センターでは、子どもの預かりにおいて、お子さんが安全に楽しく過ごせるように昨年11月から「あそVIVA！かのや」や「つどいの広場」などが設定できるようになりました。また、今回利用者の声を市ホームページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。

▲市ホームページ

フォトネタ！

巨大大根とツーショット!!

2月3日に市民ふれあい農園（下祓川町）の収穫祭が開催されました。栽培指導などが行われたほか、長さ約1m、重さ約12kgの巨大大根がお目見えしました。